

つながりを大切にし、

かかわりを深める児童生徒の育成



ユネスコスクール便り №127

令和5年6月12日

大牟田市17小スクール

担当者通信

1学期も折り返しを過ぎました。各学校におかれましては、ユネスコスクールとしての特色ある取組を進められていることと思います。本年度も本通信を通して、ESDに関する様々な情報や各学校の実践事例を発信してまいります。大牟田の子どもたちが持続可能な社会づくりの担い手となることを目指して、ESDの充実、発展に取り組んでいきましょう。

● 本年度の委員と主な行事

〈令和5年度 ユネスコスクール担当者会〉

会 長：溝上 尚子（天領小） 大向 智樹（橘中） 高口 直喜（高取小）
副 会 長：田中 隆司（羽山台） 高倉 洋美（宮原中） 龍 寿（明治小）
部 長：廣松 隆広（白川小）
副 部 長：緒方 亮（宮原中）
推進委員：松崎 万貴（中央小） 原田 志乃（駛馬小） 篠倉 健太（大正小）
原田 由美（明治小） 横川 順一（高取小） 木村 光輝（銀水小）
廣松 忍（上内小） 荒川 正明（倉永小）

〈ESDに関する主な行事予定〉

- ・ 7月28日（金） ユネスコスクール・SDGs/ESD 交流会
- ・ 1月27日（土）「おおむた教育の日」（仮称）

教えて！
大牟田の ESD



今年度から大牟田市に採用された先生方のためにも、ESDについて、改めて確認していきましょう。

Q：「ESD」や「ユネスコスクール」について教えてください

「ESD」とは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育のことです。現在、世界には環境・人権・平和など様々な課題があります。「ESD」は、これらの課題を自分の問題として捉え、自分なりに考え、身近なところから行動することによって、その課題の解決をめざす学びです。この「ESD」は、学習指導要領全体において基盤となる理念として組み込まれており、全ての学校で実践していくことが求められています。そして、「ESD」を推進する拠点校が「ユネスコスクール」です。大牟田市では全ての市立小・中・特別支援学校で、学校や地域の特色を生かした「ESD」に取り組み、全国に発信しています。

● 各学校の特色ある取り組み



宮原坑子供ボランティアガイド 駛馬小学校

駛馬小学校では、校区にある宮原坑で、毎年6年生が子供ボランティアガイドを行っています。近年は、修学旅行や研修で見学に来られる方々に向けてガイドを行ったり、「明治日本の産業革命遺産」の八幡エリアの学校と交流を行ったりしています。本年度も6年生がその役割を引き継いで、練習を重ねてきました。宮原坑を訪れた方々に、そのよさを伝えられるように知識を広げたり、クイズを考えたりしています。見学者とのコミュニケーションを図りながら、よさを伝える難しさを感じていますが、「宮原坑のすごさを伝えたい。」とやる気いっぱいに取り組んでいます。



宮原坑でのボランティアガイド



わたしたちにできる ESD 手鎌小学校

手鎌小学校では、生活科や家庭科・総合的な学習の時間等を通して、食への関心を深め、健康な生活への実践力を高めています。6年生では、世界や日本の食糧自給率や食品の破棄量に触れることで、SDGsへの関心を高めました。「わたしたちにもできることがあるはず」を合い言葉に、現代社会に生きる世界に視野を広げ、自分たちの身の回りにあるSDGsについて探究しました。

この学習を通して、17のゴール達成のために自分が実践していくことにとどまらず、もっと多くの人が実践者となるように発信に力を入れる子どもたちの姿が見られています



発信のための動画制作の様子